

2024年10月1日

令和6年度 10月博士前期・後期課程入学式告辞

九州工業大学長 三谷康範

ご入学おめでとうございます。皆さんの熱意と努力が実を結び、今日の入学式を迎えられましたことに敬意を表します。九州工業大学に皆さんを迎えることができ、私たちにとってこの上ない喜びです。

本日入学される68名の皆さんのうち、60名、約88%は20の国や地域からの留学生です。多様性に富んだ多くの入学生と共に学び、刺激しあうことで創出される多くのイノベーションに大きな期待を抱いています。

今、世界を見渡せば多くの分断や紛争が起こっています。このような不穏な情勢にもかかわらず、多くの国と地域からたくさんの方々に本学への関心を持っていただきました。皆さんの入学は、これからの国際的な理解の促進と国際関係の正常化に大きく貢献するでしょう。

留学生の皆さんの中には初めて日本に来られた方も多いのではないのでしょうか。この告辞では、いくつかの言語に機械翻訳した資料を用意しました。ご存知のように生成AIの発達により、あらゆる情報処理が飛躍的に効率化されており、こうした多言語への翻訳も正確で高速な処理が可能になっています。本日はその恩恵を受けることにいたしました。

さて、生成AIの利用に関しては多くの期待があり、これからの難しい社会課題に皆さんが挑戦する中で、大きな力になることは間違いありません。ただし、生成AIへの正しい理解と正しい使い方を習得する必要があり、安易な生成AIの利用は却って問題解決を遠ざけてしまう場合があることにも十分に注意を払う必要があります。

これからの大学院生活の中で重要なことは、異なる文化を理解する努力を続け、日頃から様々なことに好奇心を持ち、課題を前にして物事を考え抜き、チャレンジ精神を持ち続けることです。こうした前提のもと、生成AIは技術で戦う

場合の優れた道具となります。ただし、この高機能な道具を使いこなせるかどうかは、その人の日頃の思考と行動の仕方にかかっているのです。

九州工業大学では、大学の研究室で生み出された技術をそこに留めず、社会に実装することによって、これまで誰もできなかったことを可能にして、社会変革を引き起こすことを目指しています。社会課題に対して、単に最先端の技術を持ってきただけでは、多くの場合、問題解決へはつながりません。大切なことは、皆さんが開発する技術が社会でどのように役立つのかを常にイメージし、たくさんの人々と交流して多くの視点を持って研究を進めることです。

これまでの科学技術の発展を見ると、自由で開かれた環境で様々な知性と個性を持った人々が出会い、交流し、そして多くの失敗の経験を通して、イノベーションは引き起こされてきました。皆さんにおかれましても、これから新しい師と出会い、多くの友を得て、多様な研究者との交流が進み、ネットワークを広げ、その結果が皆さんの研究の厚みを飛躍的に向上させるものと確信しております。

昨今、世界はナショナリズムに支配されて分断が広がっており、様々な面で社会活動や経済活動が多大な制約を受けています。サプライチェーンの分断はエネルギーや食料品の流通に影響し、私たちの生活必需品の入手にも様々な問題が起こっています。また、半導体をキーワードとする先端技術のように、開発競争においては政治的な要素も加わって事態を一層複雑にしています。状況の劇的な変化が短期間に生じ、未来は不安定性、不確実性を増しており、予測不可能な世界を生き抜く力の大切さが改めてクローズアップされています。このような中で、皆さんは新たな一步を踏み出しました。

これから皆さんが過ごす大学院での学びの最大の目的は、豊かで平和な世界の構築に貢献するための活動に必要な能力を身につけることです。その源は、好奇心、探求心、そして継続力です。好奇心と探究心があれば、ポジティブに学びに取り組んで、新たな知識やスキルを身に付けることができ、継続力によって成長し続けることができます。

また、失敗を含む多くの経験によって様々な変化に対応する力を身に付けられれば、それらの能力を最大限に活かして、新しい経験に基づく能力の成長をもたらすことができます。科学技術の進歩が著しい今日、学ぶことに終わりはありません。大切なことは、学び続ける能力を身に付け、それを実践することです。好奇心と探究心を持ち続け、ここに多くの経験とあらゆるものに対するクリティカ

ルシンキングの姿勢を持ち続けることによって、AIに負けない能力を育んでください。

最後となりましたが、皆さんがこの地に来られて新しい生活を始めるに当たり、健康に十分留意され、知的好奇心を持ち続け、様々な学習機会と環境を活用して、充実した大学院生活を送り、本学を選んだことが最良の結果をもたらすことを心から祈念いたしまして、告辞いたします。本日は誠にありがとうございます。